

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 四国支社

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22~24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
- 現在の人口：9,546人、将来：8,013人（2030年）、5,512人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
- 資源循環型社会づくりの推進 現状：リサイクル率：17.7%→目標：22.0%（2025年）

②具体的な取組

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

コワーキングスペース「Warmth」を住民同士や域外とを有機的につなぐ地域の交流の結節点として活用し、関係人口拡大に向けた様々な事業の創出を図る。

- ・デジタル地域通貨を活用した地域内循環の促進事業
- ・サイクリング×四万十川流域の広域連携による観光地域づくり事業

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

→

- ・四万十川流域で連携し、時代にあった地域をつくる
- ・家族全員・地域全体で子育て
- ・「帰りたくなる」心のふるさと
- ・豊かな地域資源を活かした産業振興

当地域では、昔から四国西南地域の交通の結節点であったことから、人と人とのつながりや地域でのコミュニティを大切にしており、今後も地域住民を中心に移住者や来訪者も含めて、それらを育てていきたいと考えています。

→

住民・高校生・地元事業者が一体となった観光地域づくりによる関係人口の拡大を図ることで、住民同士や域外との交流を通じた連携・協働といった「交流機会の拡大」、地域ならではの特色ある学習や教育環境整備による地域内進学者の増加に伴う「高校の存続」、地域の魅力向上による来訪者や高校生の増加による「公共交通の維持」、移住者や観光客による町内の消費拡大、人材や後継者の確保による「地場産業の発展」の実現を目指しています。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	実績値	単位
				(2022年度末)	(2023年度末)	
環境	バス路線の再編と利便性向上	デマンドタクシー及びデマンドバスの利用者数(S)	160	170		人
	近永駅周辺開発の実施	近永駅乗降客数(S)	70,810	80,665		人
	賑わいスポットの創出	レンタサイクル利用者	0	20		人
経済	コワーキングスペース等への利用者誘致	コワーキングスペース利用者数(C)	240	360		人
	鉄道の利用促進	サイクルトレインの利用者数(S)	0	2		人
	観光地域づくりの推進	観光商品の充実(C)	0	2		件
社会	独自カリキュラムの導入	森林教室(C)	0	1		回
	公営塾の充実	公営塾生徒数(C)	20	23		人
	高校寮の整備と運営の充実	全国募集による入学希望者(C)	0	1		人

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	目標年度	目標値	単位
				(2023年度末)	2030-2050年度		
環境	JR予土線の利用促進	平均旅客輸送人員(予土線)(C)	195	237	2030年度	400	人/日
経済	交流人口拡大	観光入込客数(C)	69.2	70.4	2030年度	75	万人
	町なか再生	移住者(C)	67	70	2030年度	80	人
社会	高校魅力化	募集定員と同数(C)	47	50	2030年度	80	人
	賑わい創出	賑わいイベント参加人数(C)	0	0.2	2030年度	1	万人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください